

令和3年（2021年）の秋サケの資源状況について

令和3年6月28日

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構
さけます・内水面水産試験場 さけます資源部

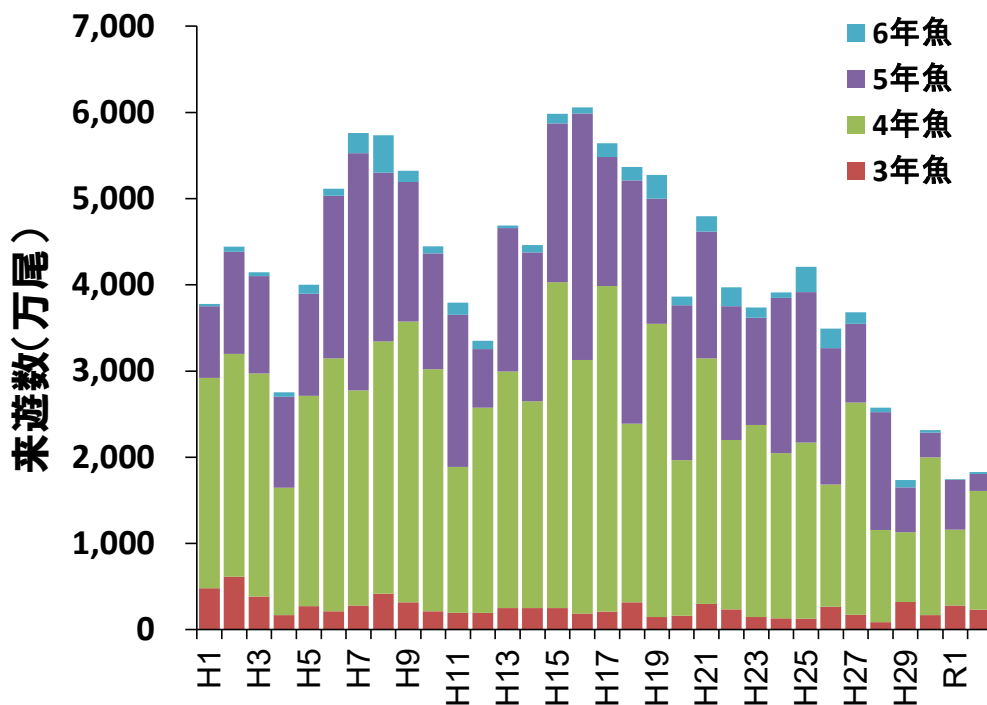


図1 北海道への秋サケの来遊数（年齢別）の推移

令和2年の北海道への秋サケ来遊の特徴

○令和2年（2020年）の全道への秋サケ来遊数（沿岸での漁獲数と河川での捕獲数の合計）は1,833万尾と前年度比で104%、平成以降で3番目に少ない数量となりました（図1）。また、予測に対する実績の値は92%と全道では概ね予測並みの回帰実績となりました。一方で、地域別にみると実績が予測を大きく下回る地区も見られました。これは9月の沿岸水温が高く推移したことにより、前期群の来遊に地域的な偏りが生じたためと考えられます。

○年齢別来遊数について、4年魚（平成28年生）は1,377万尾で平成以降4番目に少なく、5年魚（平成27年生）は197万尾で平成以降最も少ない値でした。一方、3年魚（平成29年生）は230万尾と平成以降では概ね平均的な値でした。

○時期別では、前期が968万尾（前年対比107%）、中期が752万尾（前年対比103%）、後期が113万尾（前年対比117%）と、全ての時期で前年を上回りました。

○令和2年の平均目廻りは3.15kgと前年の3.12kgからほぼ変わらず、過去10年の平均値の95%にとどまりました。

各海区への来遊状況

○令和2年の各海区への来遊数は日本海で前年を大きく上回りましたが、それ以外の海区では前年並みまたは前年を下回りました（図2）。

○年齢別にみると来遊の主群である4年魚は日本海で過去10ヶ年で最も多い来遊数となりましたが、オホーツクでは平均値程度の、根室、えりも以東・以西海区では低調な数値となりました。また、5年魚は各海区ともに過去10ヶ年で最低水準の来遊数でした。3年魚は地域によるばらつきが大きく、来遊数が前年を大きく上回ったのは日本海だけでした。

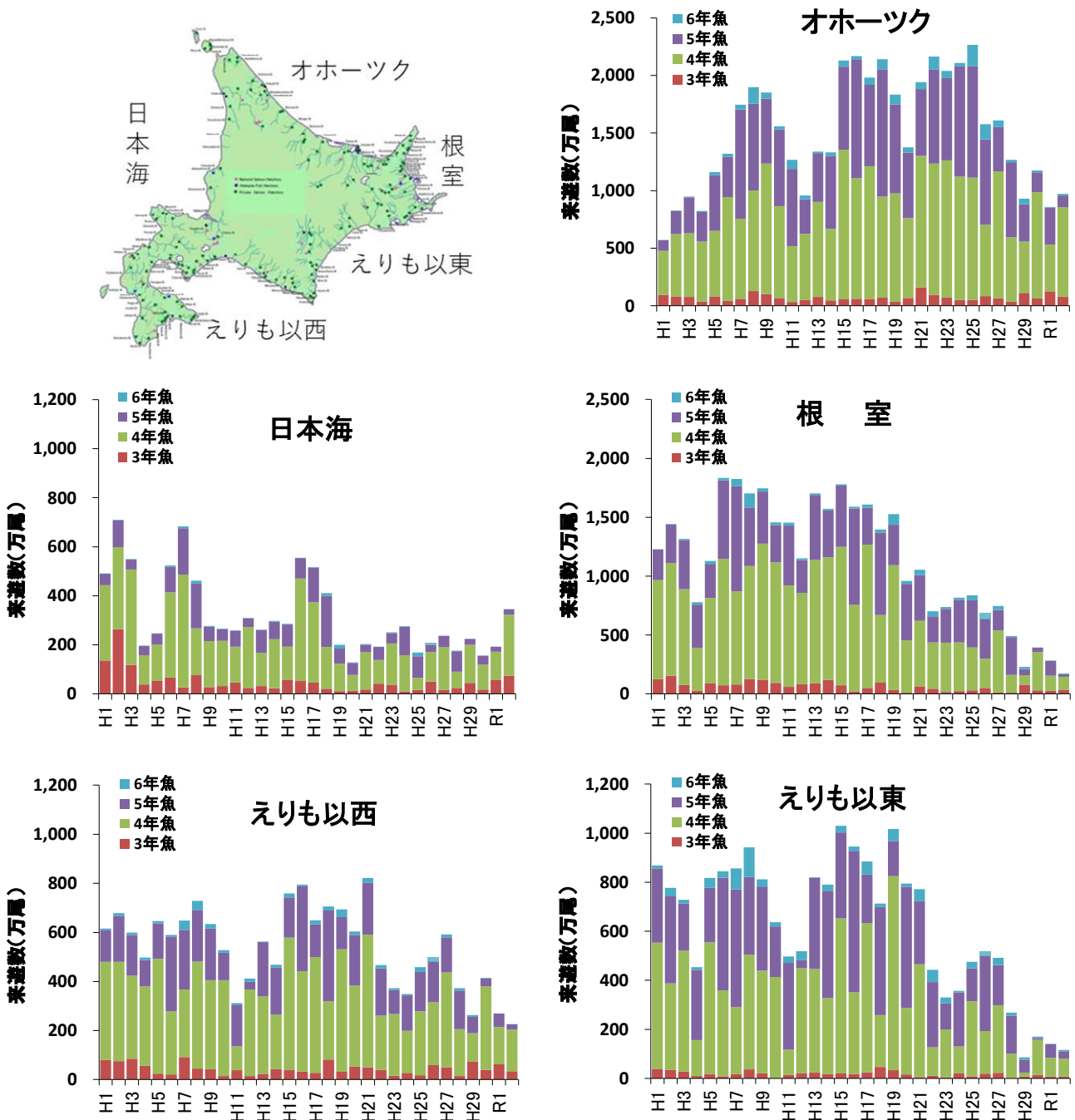


図2 各海区への秋サケの来遊数（年齢別）の推移

今年(令和3年)の来遊予測

○これまでと同様にシブリング法を基本に来遊数を予測しました。この手法では、前年の3年魚の来遊数から今年の4年魚の来遊数を、前年の4年魚の来遊数から今年の5年魚の来遊数を推定します(図3)。

○最近、成熟年齢の**若齢化**が進んでおり、これが予測精度に影響することが明らかになりました。このため、令和3年の予測では**若齢年級**のデータ(図3の○)だけを使って分析を行い、予測値を算出しました。

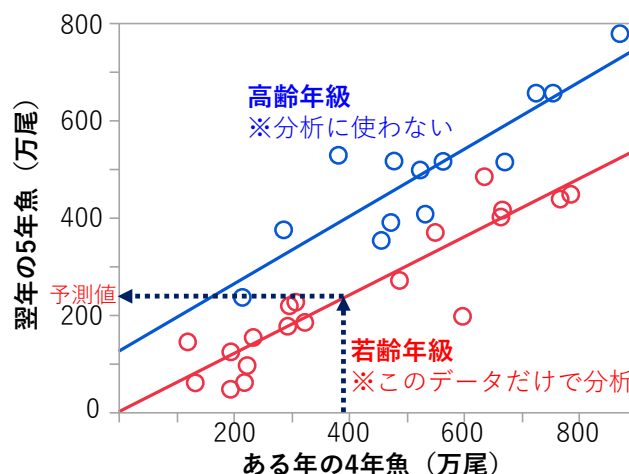


図3 シブリング法(例:A地区)

今年の予測値

令和3年(2021年)の全道への秋サケ来遊数は1,677万2千尾と予測されます。地区別の予測値は下表のとおりです。

海 区	地 区	令和3年 予測値(千尾)	令和2年 来遊数(千尾)	前年比(%)
オホーツク	東 部	3,550	3,984	89.1
	中 部	2,909	3,151	92.3
	西 部	2,376	2,579	92.1
	小 計	8,835	9,714	90.9
根 室	北 部	1,309	1,370	95.5
	南 部	298	352	84.4
	小 計	1,606	1,722	93.3
えりも以東	東 部	344	385	89.4
	西 部	669	776	86.1
	小 計	1,013	1,161	87.2
えりも以西	日 高	731	932	78.5
	胆 振	470	637	73.8
	噴火湾	410	455	90.1
	道 南	192	240	79.7
	小 計	1,803	2,263	79.6
日 本 海	北 部	1,321	1,227	107.7
	中 部	1,569	1,549	101.2
	南 部	626	692	90.4
	小 計	3,515	3,469	101.4
北 海 道 総 計		16,772	18,330	91.5